

2018（平成30）年度 学会活動報告

- 2018年10月25日(木) 大会案内を発行する。
- 2018年11月18日(日) 中等社会科教育学会第37回研究大会を筑波大学東京キャンパスで開催する。
- 2019年3月29日(金) 『中等社会科教育研究』第37号を発行する。

2019（平成31・令和元）年度 学会活動計画

- 2019年9月10日(火) 大会案内（一次案内）を発行する。
- 2019年10月31日(木) 大会案内（二次案内・プログラム）を発行する。
- 2019年11月17日(日) 中等社会科教育学会第38回研究大会を筑波大学東京キャンパスで開催する。
『中等社会科教育研究』（『筑波社会科研究』も含む）オープンアクセス化を開始する。
- 2020年3月31日(火) 『中等社会科教育研究』第38号を発行する。

事務局便り

1. 2020年度の中等社会科教育学会全国研究大会について

2020年度の全国研究大会は、第70回日本社会科教育学会全国研究大会（筑波大会）に後援として参加するために、開催いたしません。このことは、2019年11月17日（日）に行われました第38回中等社会科教育学会全国研究大会の総会で報告いたしました。後援ですので、大会参加費は必要ですが、2020年11月28（土）・29日（日）、10年に1回筑波大学で行われます日本社会科教育学会の全国研究大会にぜひご参加いただけますよう、よろしく願います。

2. 『中等社会科教育研究』（『筑波社会科研究』も含む）のオープンアクセス化について

2019年11月17日（日）に行われました中等社会科教育学会総会において、『中等社会科教育研究』（『筑波社会科研究』も含む）のオープンアクセスについて会員の皆様のご了承を得ることができました。それを受けて、筑波大学の「つくばリポジトリ」を経由して『筑波社会科研究』は1号～23号、『中等社会科教育研究』は24号～34号まで、つくばリポジトリおよびサイニー（CiNii）で論文を検索することができます。ぜひ、論文検索をご利用ください。

つくばリポジトリ <https://tsukuba.repo.nii.ac.jp/>

3. 学会費納入のお願い

2019年度の学会費振込用紙を同封いたしましたので会員の皆様のご納入をお願いいたします。学会費は当学会の唯一の財源です。どうぞよろしくお願いいたします。会費未納の場合には、学会誌の送付を一時停止しますことを予めご了承ください。振込番号や名義、会費は以下のとおりです。

振替番号：00350-4-7442 名義：中等社会科教育学会 会費 3,000 円

4. 住所変更のお願い

毎年、事務局からお送りした案内や連絡等がかなり戻ってきます。住所変更などがありましたら、お早目に事務局宛にメールでお知らせください。

【中等社会科教育学会事務局】

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学人間系教育学域社会科研究室 中等社会科教育学会事務局 宛

ホームページ：<http://www.chuusha.jp/>

Mail：chuushagaku@yahoo.co.jp

授業実践研究部会の活動記録

第31回全国研究大会総会（2012年11月3日）において、出席者の賛同を得て、授業実践研究部会が発足いたしました。

2019年度の当部会の活動について、下記の通り報告いたします。

・第19回例会 参加者：41名

期日：2020年2月1日（土） 13時30分～17時 文京区男女平等センター 研修室A

内容：「思考力・判断力・表現力」を測る入試問題の作問ワークショップ

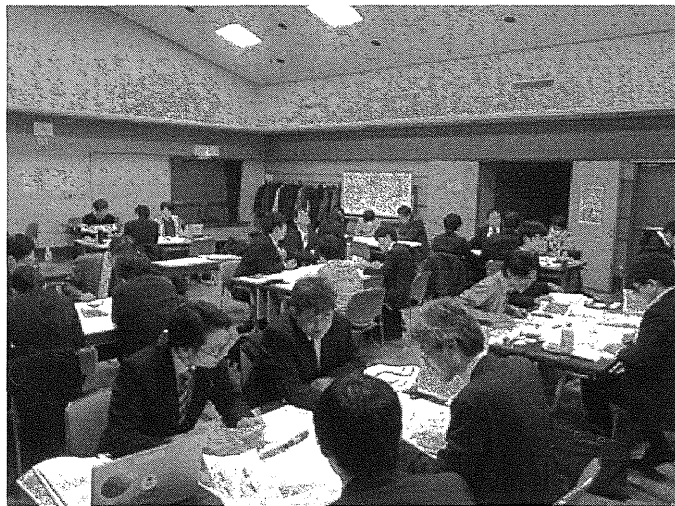
講師：佐藤裕治氏（河合塾 地理担当講師）

概要

次期学習指導要領では、「知識・技能」とともに「思考力・判断力・表現力」の育成が重視されているが、現場では「授業の中でどのように育成するか」が中心で、「どんな問題であれば、それらの能力を測定できるか」という議論は途上と思われる。さらに、校内での定期考査における作問や評価と、「入試で測定する」ことの違いなども、理解は進んでいないと思われる。そこで、河合塾の地理科の講師として、長年模擬試験の作問や学習指導要領の研究に携わり、日本地理学会地理教育専門委員会の委員も務める佐藤裕治先生を講師にお迎えし、入試問題を一緒に作り上げるワークショップを企画した。

第1部は、地理を中心に「思考力・判断力・表現力」を問う入試問題を佐藤先生にご紹介いただき、「思考力・判断力・表現力」を測定するとはどういうことか、定期考査と入試の違いなど、入試問題作成のポイント等について解説頂いた。

第2部は、史資料や写真などのいくつかの素材をもとに、「思考力・判断力・表現力」を測る入試問題の作成に、地理・歴史・公民に分かれてグループで作成にあたった。作問の意図や問題の形式によって、同じテーマでもまったく違う入試問題になることなどを通じて、地理歴史科、公民科における「思考力・判断力・表現力」を測定する入試問題について、考えを深めた。



作問グループワークの様子

当部会の開催告知については、主に、学会ウェブサイトの掲示板BBSで行います。会員の皆様には、当部会の趣旨を御理解いただき、当会企画の会合等に、積極的に御参加下さい。

2018 - 2019 年度 中等社会科教育学会役員

任期：2018年（平成30）年4月1日～2020年（令和2）年3月31日

会長 伊藤 純郎

副会長 井田 仁康

事務局 唐木 清志 國分 麻里

学会誌編集委員（◎は委員長，○は事務）

◎井田 仁康 大野 新 鎌田 和宏 川崎 誠司 栗原 久
須賀 忠芳 寺本 誠 丹治 達義 ○中村 光貴 野口 剛
藤本 和哉 谷田部玲生 山口 泰宏

評議員

渥美 利文 飯島 睦子 石本由布子 磯山 恭子 井門 正美
茨木 智志 大野 新 小野 智一 加藤 公明 熊田 禎介
栗原 久 今野日出晴 佐藤 秀樹 須賀 忠芳 杉浦 正和
田尻 信壹 高橋 健司 外池 智 中切 正人 松岡 尚敏
松崎 康弘 草間真智子 宮菌 衛 森岡 孝文 山根 栄次
李 明熙 若生 剛

理事

井田 仁康 伊藤 純郎 江口 勇治 鎌田 和宏 唐木 清志
川崎 誠司 木村 勝彦 桐谷 正信 齋藤 慶子 佐藤 公
杉田 孝之 多田 知子 丹治 達義 寺本 誠 年友 彩
野口 剛 華井 裕隆 藤本 和哉 真柴 晶彦 三橋 浩志
谷田部玲生 山口 泰宏 山田 美保 山本 栄一

学生幹事（筑波大学大学院教育研究科社会科コース院生）

金久保響子 川那邊宥樹 小室嘉奈子 永山 可菜 永吉 航
菊島 晶子 竹内 嶺 前山 直道 山口紗奈子 吉村 佳樹

顧問

横山十四男 篠原 昭雄 谷川 彰英 江口 勇治

【編集規定】

- 本誌は中等社会科教育学会の機関誌である。
- 本誌は年1回発行するものとする。
- 本誌は本学会の会員の研究およびそれに資する情報の発表の場である。
- 本誌の編集は本学会の編集委員会が担当する。
- 本誌に掲載する原稿は、すべて編集委員会を経由しなければならない。
- 本誌に掲載する原稿の採否は、レフリーの審査を経た後に委員会が決定する。
- 本誌に掲載する原稿について、編集委員会は執筆者に内容の変更を要求できる。
- 本誌に掲載することが編集委員会において決定した原稿・電子媒体（CD等）は返却しない。
- 本誌に掲載する原稿の執筆者による校正は第1校までとする。その後の校正は編集委員会が行う。
- 本誌に掲載された論文・記事等の抜刷は執筆者の希望によって作製するが、その作製費・輸送費はすべて執筆者が負担するものとする。
- 本誌に掲載する原稿の図版等で、特別の経費を必要とするものについては、執筆者が負担するものとする。

【執筆要領】

- (1) この機関誌への投稿は、本学会の会員に限られる。非会員と連名での投稿の際は、非会員の場合は入会手続きを取らなければならない。ただし、編集委員会からの依頼原稿の場合は、この限りではない。
- (2) この機関誌への投稿原稿は、未発表のものに限られる。ただし、口頭で発表したものや私的に配布した印刷物の場合は、この限りではない。
- (3) 投稿は以下のものである。

研究論文	社会科教育の歴史・理論および海外の事例などについての研究 12,000字×17枚程度
実践論文	学校教育・社会教育などでの自らの社会科教育の実践をふまえた授業研究 12,000字×14枚程度
研究ノート	社会科教育の歴史・理論・事例研究や提言 1,200字×10枚程度
授業レポート	社会科の授業や展示の実践紹介 1,200×3枚程度
社会科教育情報	社会科教育に関連した有益な情報の提供 1,200×2枚程度
書評	社会科教育に関連した書籍の批評 1,200×2枚程度
図書紹介	社会科教育に関連した書籍の紹介 400字程度

- (4) 投稿原稿の本文は必ず一太郎かWordを使って作成する。その際にA4判で横書き、40字×30行でページ設定する。手書き原稿は受理しない。
- (5) 投稿原稿は完全成稿とし、打ち出し原稿には図表も貼付する。また、必ず英文タイトルも付ける。
- (6) 投稿の際は、打ち出し原稿3部を編集委員会宛に送付する。掲載が決定した場合は、電子媒体（CD等）の形でデータを提出する。
- (7) 投稿の際には、必ず執筆者の名前・よみがな・所属（職名その他をふくむ）・連絡先（郵便番号・住所・電話番号・電子アドレス）を明記する。
- (8) 投稿のあて先は以下の通りである。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-9-1 筑波大学附属高等学校
中村 光貴 メールアドレス：mnakamur@high-s.tsukuba.ac.jp

- (9) 投稿を希望する者は、投稿者氏名及び所属、タイトル（仮題可）、連絡先（電話／メールアドレス）を、7月末日までに上記あて先まで事前に連絡をする。
- (10) 投稿の提出締め切りは、9月15日とする。
- (11) 掲載された論文等については「つくばリポジトリ」に登録し、公開する。「依頼論文」「書評」「図書紹介」「シンポジウム報告」等、投稿によらない論文等についても「つくばリポジトリ」に登録するものとする。

編集後記

『中等社会科教育研究』第38号をお届けします。会員の皆様には、多くの論稿を投稿していただきありがとうございました。ご投稿いただいたことに感謝します。査読の結果、研究論文4本、実践に基づいた論稿である実践論文3本、社会科教育情報1本、および多数の書評、図書紹介を掲載することができました。公民関連の論稿が多くなっていますが、地理、歴史の投稿もあり、社会科全体として活発な研究が展開されているといえるでしょう。こうした投稿論文が多くなった背景としては、本学会の授業実践部会の活動があります。2019年3月に投稿論文の書き方をテーマにした例会を開催していただき、多くの会員に集まっていただきました。こうした論文の書き方講習を開催している学会は他にもあるようですが、本学会は初めてで、その効果が見られたのではないかと推測されます。授業実践部会の委員の皆様には厚く御礼を申し上げるとともに、参加していただいた会員の皆様、ありがとうございました。こうした活発な研究活動が今後とも続けられ、次号以降も、会員の皆様の活発な研究の場としたいと存じますので、多くの投稿をよろしくお願いいたします。

本離れが進み、デジタルのものが普及し、本の売れ行きはよくないと聞きます。しかし、デジタル化が進んでも、活字で論文をよみ、批評しあうことはなくなるのではないのでしょうか。本学会でも予算が厳しく、学会誌にさける予算が減りつつあります。一方で、こうした多くの方が投稿くださり、学会誌が厚くなることは、学会の予算を圧迫するとはいえ、嬉しいことです。この雑誌を印刷していただいている甲文堂様にも、かなり無理をいって予算の削減に協力していただいています。会員を増やし、未納の方を少なくし、論稿が多く掲載された学会誌としたいと思えます。会員の皆様、どうぞ研究を推進していただき、本誌に論稿を発表していただき、かつ会員の拡大にご協力いただきたく存じます。

なお、査読していただき、貴重なコメントをいただいた先生方、根気強く修正に応じていただいた執筆者の皆様にあらためて感謝いたします。

本号の編集事務は、筑波大学附属高等学校の中村光貴先生に担当していただきました。年度末に確実に本誌が皆様のお手元に届くよう、原稿の締め切りを調整していただき、執筆者と査読者との間にはいりご苦労されただけでなく、入稿、発送作業など様々な編集にかかわる事務をこなしていただきました。厚く御礼申し上げます。

『中等社会科教育研究』は、今後とも皆様の研究成果を迅速に発表できる場にしたいと考えております。会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

(井田仁康)

編集委員会

委員長	井田 仁康 (筑波大学)
委員	大野 新 (大東文化大学)
	鎌田 和宏 (帝京大学)
	川崎 誠司 (東京学芸大学)
	栗原 久 (東洋大学)
	須賀 忠芳 (東洋大学)
	寺本 誠 (お茶の水女子大学附属中学校)
	丹治 達義 (筑波大学附属視覚特別支援学校)
	中村 光貴 (筑波大学附属高等学校)
	野口 剛 (帝京大学)
	藤本 和哉 (筑波大学附属高等学校)
	谷田部玲生 (桐蔭横浜大学)
	山口 泰宏 (筑波大学附属中学校)